

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年03月06日

計画の名称	階層拠点と交通網ストックを活かしたコンパクトな都市構造の形成												
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	北九州市												
計画の目標	本格的な人口減少社会における地域社会の活力の維持・向上を図るため、まちづくりと連携し、市域全体を見渡した持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指す。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	76	A	68	B	0	C	8	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	10.52	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H20当初	H26末	H31末
1	公共交通人口カバー率...現状の80%を維持 市内総人口における、公共交通空白地域(市街化区域内で鉄道駅から500m以上、またはバス停から300m以上の地域(高台地区(標高50m以上)のバス停は100m以上)以外の人口割合	80%	80%	80%
2	公共交通分担率...現状の20%を維持 H17北部九州PT調査を基に、公共交通利用者を経年的に把握する。その利用者増分を自動車利用者からの転換と見なして分担率を計測する。	20%	20%	24%
3	自家用車CO2排出量...約1%(7,000t-CO2)を削減する(当初697,000t) 環境モデル都市におけるCO2削減量を目標とし、公共交通利用への転換を台数削減のCO2排出量を計測し、把握する。 当初現況値に対する削減割合	100%	-1%	-6%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	北九州市	直接	北九州市	-	-	小倉黒崎間幹線地区 公共交通拠点アクセス強化事業	交通拠点整備計画作成	北九州市						3		-	
	A13-002	都市交通	一般	北九州市	間接	民間	-	-	小倉黒崎間幹線地区 バス停留所公共交通施設整備	民間建築物合築(4ヶ所)	北九州市						0	4.55	-	
	A13-003	都市交通	一般	北九州市	直接	北九州市	-	-	小倉黒崎間幹線地区 バス乗継拠点整備(交通広場)	交通広場(1箇所)	北九州市						0	4.55	-	
	A13-004	都市交通	一般	北九州市	間接	民間	-	-	小倉黒崎間幹線地区 公共交通利用促進施設整備	シェルター補助	北九州市						22	4.55	-	
	A13-005	都市交通	一般	北九州市	直接	北九州市	-	-	小倉黒崎間幹線地区 バスレーンカラー舗装	砂津～黒崎(3.08km)	北九州市						43	4.55	-	
											小計						68			



C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
市街地整備事業	C13-001	都市交通	一般	北九州市	間接	民間	-	-	小倉黒崎間幹線地区 運行 情報提供施設整備補助	バスロケーションシステム	北九州市						1	4.55	-	
		バスの運行情報をリアルタイムでお知らせすることで、乗継をスムーズに行えるようにし、バス停の利便性を高める。																		
	C13-002	都市交通	一般	北九州市	間接	民間	-	-	小倉黒崎間幹線地区 運行 情報提供施設整備補助	液晶時刻表スマートバス停整 備	北九州市						7	4.55	-	
		デジタル配信によるフレキシブルな運行計画への対応と、時刻表の拡大表示及び多言語表記、災害時の情報提供が可能となり、バス停機能が多岐に渡り向上するとともに、運用効率が大幅に改善する。																		
											小計						8			
											合計						8			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
北九州市建築都市局都市交通政策課が事後評価を実施 北九州市環境首都総合交通戦略推進連絡会に意見聴取を実施	令和4年度
	公表の方法
	北九州市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	バス停の上屋やベンチ、バスレーンカラー舗装などの整備により、公共交通拠点や公共交通軸における環境整備を行うことで、公共交通の利用促進を図るとともに、市民の移動手段の確保を図った。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	「北九州市地域公共交通網形成計画」（H28.8）において、施策の柱として進めてきた“地域や生活行動に応じたバス路線の見直し【地域密着型バスネットワークの提供】”など、公共交通拠点や公共交通軸にて様々な施策に取り組み、市民の移動手段を確保した。
特記事項（今後の方針等）	
<p>「北九州市地域公共交通計画（北九州市環境首都総合交通戦略）」（R4.3）において、本市が掲げる交通理念「環境にやさしく安心して移動できるまちを目指して」の実現に向け、4つの基本方針とそれに基づく交通施策を設定し、推進していく。</p> <p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な公共交通ネットワークの強化・充実</li> <li>・利便性の向上・環境にやさしい公共交通の利用促進</li> <li>・誰もが使いやすい公共交通の実現</li> <li>・公共交通を支える道路環境の充実</li> </ul>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	公共交通人口カバー率		
	最終目標値	80%	公共交通人口カバー率は、目標策定時（H20）の80%から、施策の実施と市民の積極的な公共交通利用により、目標の水準を維持することができた。
	最終実績値	80%	
公共交通分担率			
2	最終目標値	24%	公共交通分担率は、目標策定時（H20）の20%から、公共交通利用者の増加と人口減等による総トリップの減少により、約23%まで増加したが目標の24%（R2）には到達しなかった。公共交通分担率は、平成29年度に実施したパーソントリップ調査の結果を令和2年度の現況値とみなし評価しているため、令和2年度の状況を完全には反映できていないといった課題はあるものの、公共交通分担率は増加傾向にあり、移動時に公共交通を利用する人の割合は高くなっている。
	最終実績値	23%	
	自家用車CO2排出量		
3	最終目標値	-6%	自家用車CO2排出量は、目標策定時（H20）の69.7t / 年から、公共交通利用者の増加により約3.6%（CO2削減量：2.53t / 年）の削減となったが、目標には到達しなかった。公共交通分担率は増加傾向にあり、自家用車利用者からの転換が図られていると考えられ、加えて今後のCO2排出低減車両（EV車など）への車両転換により更なるCO2排出量削減に繋がるものと期待される。
	最終実績値	-4%	